



2026年3月31日

各 位

上場会社名 日本カーボン株式会社
代表者 代表取締役社長 宮下 尚史
(コード番号: 5302 東証プライム市場)

富山工場火災事故についてのお知らせ(最終報)

2025年8月29日(金)に発生いたしました弊社の富山工場(富山県富山市)構内の火災について、消防機関による実況見分ならびに調査が完了し、発生原因および再発防止策を下記の通り取りまとめたのでお知らせいたします。

改めまして、地域住民の皆様、お取引先様、株主・投資家の皆様、関係機関の皆様をはじめ、多くの方々にご心配とご迷惑をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

記

1. 富山工場の概要

弊社の富山工場の概要は次のとおりです。

- (1) 所在地 : 富山県富山市高内 27
- (2) 総敷地面積 : 233, 121 m²
- (3) 生産品目 : 人造黒鉛電極、リチウムイオン電池負極材 ほか

2. 火災の発生状況

2025年8月29日(金)午前7時16分、人造黒鉛電極の製造工程で使用する黒鉛化炉設備から約3,000℃に加熱された発熱体であるコークス(石炭を高温処理した1cm以下の炭素粒子)が、爆発音とともに工場の屋根から噴出し、火災が発生しました。消防の方々に消火活動を行っていただき、8月31日(日)午後4時に鎮火が宣言されました。

3. 被害状況

幸いにも、周辺住民の方々および弊社工場の従業員ともに人的被害はございませんでした。また、近隣住宅等への類焼もございませんでした。火災が発生した建屋のべ床面積は10,907.45 m²であり、焼損床面積は4,440.32 m²(半焼)でありました。

4. 発生原因

今回の火災の原因について、炉内の状況、建物および設備の被害状況、炉内に残存した物質の化学成分の分析を行った結果、以下の現象が逐次的に発生し、最終的に大規模なコークスの噴出になったと推察しております。

なお、設備点検記録、作業指示書、作業記録、使用した材料の検査記録を調査しましたが、異常やヒューマンエラーなどを示すものは発見されませんでした。

- (1) 黒鉛化炉で熱処理中であった製品から揮発成分が発生。
- (2) 発生した揮発成分が、炉内に蓄積したため、急激に圧力が上昇し1回目の比較的小規模な爆発が発生。
- (3) 1回目の爆発により、高温のコークスが黒鉛化炉から噴出。
- (4) 高温のコークスが、炉の近傍にある電気部品冷却用の水道管に接触。
- (5) 水道管が高温により溶けたため、水が高温の炉内に流入。
- (6) 炉内に流入した水が瞬時に気化し膨張したため大量のコークスが噴出。

5. 再発防止

操業再開に向けて、下記のとおり再発防止策を実施し、安全操業の徹底に努めてまいります。

(1) 黒鉛化炉詰方法の変更

炉内部に揮発成分が蓄積しない詰方法に変更することによって爆発を防止します。

(2) コークス噴出防止用カバーの設置

今回の場合、噴出した高温のコークスが飛散し水道管に接触したことで、災害の規模が拡大しました。このため、万が一、高温のコークスが噴出した場合であっても、災害の規模を最小限に留めるため、炉の上部に飛散防止用のカバーを設置いたします。

(3) 水道管の仕様および位置の変更

不測の事態により、高温のコークスが水道管に接触した場合であっても、水道管が溶けることが無いように、耐火物による断熱材で保護いたします。また、水道管からの漏水があった場合であっても、黒鉛化炉に水が流入することが無いように、水道管の敷設位置を変更いたします。

6. 業績への影響

2025年12月期の連結決算において、原状回復費用を含め8億3百万円を火災損失として特別損失に計上しております。なお、人造黒鉛電極のサプライチェーンへの影響は他生産設備の活用等により極めて限定的であります。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

日本カーボン株式会社

総合企画部 管理課

nc_bm@carbon.co.jp